

令和7年度 愛野こども園施設自己評価結果

総合評価 A

1 評価項目の達成及び取組状況

| 評価対象 | 結果 | 理由 |
|---------------------------|----|---|
| (1) 幼保連携型認定こども園の教育・保育に関して | A | <p>教育・保育目標 「知恵と力を出し合って生き生きと遊べる子」 重点目標 「からだづくり こころづくり なかまづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児との信頼関係を十分に築き、園児が安心して身近な環境に主体的に関わり、試行錯誤したり、考えたりするようになる教育・保育の実践に努めることができた。 ・教育・保育をとおして育みたい資質・能力を共通にし、指導計画に位置付け、実践する中で学期ごとに考察・反省を繰り返し、指導計画を見直すことができた。 ・行事の開催や地域の人や他園との交流を少しずつ増やしてきた。幼児期に大切にしたい人や自然との交流を実施することができた。 ・幼児理解に基づいた指導計画の作成、保育実践、反省を基にした改善をPDCAサイクルで捉えて行うことで、子どもたちの心の豊かさ、たくましさの育ちを促すことができた。職員の努力の成果であり、保育者自身の質の向上につながった。 ・南の丘学園研修会に参加したり、南小との交流を年長児と年中児が体験したり、年長児が他園の年長児と交流することで小学校へのスムーズな移行や幼小一貫教育への職員の関心が高まった。 |

| | | |
|--|----------|---|
| <p>(2) 保育の実践力に関して (研修を含む)</p> | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に生活できるよう、個人差を踏まえながら一人一人に適した援助に心掛けることができ、自己肯定感を育む実践につながった。また、特別支援を要する乳幼児への支援の難しさはあるが、一人一人と向き合う中で、支援の方法をつかみ、保護者や関係機関と連携をとりながら対応することができた。 ・幼児が自らの興味や関心に基づいて、自発的、主体的にかかわろうとする環境を計画的に用意したり、日頃から慣れ親しみ安心できる環境に心掛けたりして、生活全体を充実させることができた。 ・外部研修は、集合研修が増え情報交換をしたり、実技を学んだりし保育力を高める機会となった。日々の保育実践に活かすようになった。 ・園内研修では、スマート教育について先進園に視察に行ったり、積極的に園外で行われる研修に参加したりしてきた。また、全職員をグループ分けし、研修を行った職員が他の職員に指導し互いに高め合うことができた。スマート教育スペシャリスト資格取得に向け学科試験合格者18人、スマート教育スペシャリストシングルスター取得者2人となった。 |
| <p>(3) 教諭としての資質について (能力・良識・適性)</p> | <p>B</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の主体性を大切にしたい保育のあり方を考え合い、幼児の思いに寄り添った保育実践に努めることができ、職員間で園の教育方針を共通にして進めることができた。 ・研修や会議等で、教育活動に対する意見を積極的に出し合いより良い教育活動を考え合うことができた。 ・常に衛生面・清潔感を意識した身だしなみに心掛け、子どもたちの手本になれるような保育姿勢を築けた。また、言葉遣いに自ら気を付けることができ、子どもたちにとって正しい言葉の習得になるようにした。 ・保育室の環境では、壁面の作成や制作物等季節や発達を考えて実践した。行事の見直しにより秋の自然物活動等時期を捉えた保育内容や環境への意識が高まった。 ・室内の整理整頓は、中には苦手な教諭もいるが、避難経路の確保や棚の上に重い物を置かない工夫等ができた。 ・保育準備やお便りの作成、週日案等の提出がルールになることがあった。決められた仕事は計画的に進める責任感が必要だった。 |
| <p>(4) 教諭同士のチーム力について</p> | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教育部・保育部共に他学年の職員との連携に努め、行事の遂行、日々の保育準備、環境等に協力体制で取り組むことができた。 ・複数で保育するため役割や担当、保育内容について、打ち合わせをし連携をすることで一人一人の育ちにつながった。 ・伝達ミスを招かないよう、丁寧に伝え合い、活動等に支障が出ないように努めると同時に、守秘義務を互いに守った。 |

| | | |
|------------------------|----------|--|
| <p>(5) 保護者との連携に関して</p> | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・園児や保護者の個人情報厳守したうえで、面談の実施や連絡帳への記載をすることができた。 ・保護者面談では、傾聴を基本として保護者の思いに寄り添い園での様子を伝えてきた。また、希望があれば、その都度面談をして、子どもたちの育ちのために連携がより密にとれるようにしてきた。 ・保護者からの相談内容や、担任から保護者への報告事項について、事前に主幹教諭・園長と内容を共有し、必要に応じて対応の方法を事前に考え、丁寧に対応するようしてきた。 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の考え方が多様化しているため、様々な思いがあった。その都度、思いを傾聴し事実確認をして、丁寧に説明をし園でできることを考え対応してきた。それにより、園の教育を理解してもらい協力を得ることができた。 |
| <p>(6) 地域との連携に関して</p> | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育等で出会った地域の方に進んで挨拶を交わすことができた。また、地域の人のご厚意により座禅・田植え・稲刈り・さつま芋のつるさし・収穫等、園内では体験できないことを経験することができ、子どもたちの感動体験に繋がった。 ・職員一同、地域に根差した園であることの共通理解を図り、進んで地域の方にかかわったり、地域の自然環境を生かした園外保育に心掛け、園児に楽しませたりして心身の豊かな発達を促すことができた。教育部・保育部共、園外に出掛ける経験をたくさんさせることができた。 |
| <p>(7) 危機管理能力について</p> | <p>B</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・園児の安全と安心を第一に保育室等の避難経路や災害発生時の対応を考え環境を整えた。 ・緊急事態が発生した場合に、咄嗟の判断が求められる。職員が連携のもと、毎月の避難訓練でも様々な状況を想定し臨機応変に対応できるよう訓練の後には振り返りをし、避難の仕方や職員の対応を考えてきた。 ・ヒヤリハットを実施するようになり、保育者の安全面への意識が高まり、怪我の発生やかみつき等が減少した。 ・嘔吐処理の方法や簡単な怪我の対応の仕方をどの職員も身に着けることができ、他の職員と連携しながら対処できるようになってきた。 ・「れんらくアプリ」による登降園の確認を3段階のチェックにより、園児の未連絡者への対応を徹底し、園児の所在を明らかにしている。 |

2 総合的な評価結果

| 結果 | 理由 |
|----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の教育・保育に関すること、保育者としての資質、保育者同士のチーム力は、職員の意識が高く今年度は、新しい教育（スマート教育）を職員で研修してきた。これからの時代を生きていく子どもたちに身につけていきたい力について研修を進めてきた。外部研修では、講話を聞いたり、実技研修に参加したりと保育教諭としての質の向上につながり、日々の保育に生かし園児の成長を促すことができた。 ・保護者との連携、地域との連携については、保護者の価値観の多様化による対応の難しさがあるが、保護者に寄り添い子どもたちの発達のために連携を取ってきた。地域とのかかわりも、園外に出掛け地域の良さを生かした教育・保育実践に努めてきた。 ・危機管理能力については、毎月の避難訓練において様々な想定をし職員が臨機応変に対応できるように訓練をしてきた。園児の登園確認については、クラスにiPadを配置しチェック体制を強化した。 |

3 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取組み |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・保育の実践力について ・保護者との連携について ・地域との連携について ・危機管理能力について | <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの主体性を大切にした環境構成や支援方法等クラス運営のあり方を、職員が主体的に考えていけるよう、さらに外部研修や園内研修で保育力をつけていく。 ・スマート教育実践のため大学や短期大学と連携を強化し、職員も研修をしていく。 ・保護者の対応が多様化しているため、担任だけでなく園長、主幹教諭、学年主任などと情報共有し、丁寧に対応にあたるようにしていく。 ・保護者アンケートから課外教室の開設や行事の持ち方、園に協力したいなどという意見があり教育活動に保護者の力も取り入れていきたい。 ・地域の自然環境や人材を生かした保育を展開できるように、情報収集をしたり園から働きかけをしたりしていく。近隣の企業に出掛け、愛野こども園を知ってもらい連携していく。 ・予期せぬ災害が発生した時に対応がスムーズにできるように毎月の避難訓練でも様々な状況を考えて職員が臨機応変に対応できるようにしていく。 |

浜松学院大学付属愛野こども園 園長 田代直子

4 関係者評価委員の意見

A 委員

- ・(5)「保護者との連携に関して」の評価が昨年度はBであったが、今年度はAになっている。この説明を聞くと、保護者からの相談であったり、面談時の対応など丁寧にされている。評価はAでよいと思う。

園の先生は若い方が多いと聞いている。ベテランの先生が要となり指導をしっかりとされていて、チーム力、バランスがよいことが窺える。

B 委員

- ・(6)「危機管理能力について」がB評価になっていて少し心配していたが、説明を聞いて、避難訓練など工夫されて実施していたり、発災後のことも検討されていることが分かった。また、園舎も耐震構造であることを聞いて安心した。

C 委員

- ・(5)「保護者との連携に関して」のところで、こどもの園での様子は担任の先生から聞くことが多く、その先生の主観であったり感じたことを聞いていると思う。それだけでなく、他の先生の視点であったり別の角度から見た様子を聞けるとさらに安心できると思う。

3年間通わせている中で、保護者の要望等含めいろいろなことが改善されていると思う。

D 委員

- ・(5)「保護者との連携に関して」の評価が上がった。また、(3)「教諭としての資質について」は下がったが了解した。(6)「危機管理能力について」のところで、訓練にKYT(危険予知訓練)を導入するとよいと思う。

E 委員

- ・総合的な評価結果は、A評価でよいと思う。

A・B・C・D 委員

- ・総合的な評価結果は、Aでよいと思う。

令和7年度 浜松学院大学附属愛野こども園学校関係者評価委員会委員名簿

浜松学院大学附属愛野こども園学校関係者評価委員会設置規程

第3条 こども園関係者評価委員は、浜松学院大学附属愛野こども園運営委員とする。ただし、副園長及び教頭、主幹保育教諭並びに園長が必要と認める者を除く。

| NO | 氏名 | 住所 | 愛野こども園運営委員の要件 | 備考 |
|----|------|-----|--------------------------|----|
| 1 | 田代直子 | 袋井市 | 愛野こども園園長 | |
| 2 | 坂田温志 | 浜松市 | 浜松学院大学短期大学部教授 | |
| 3 | 清水雄太 | 浜松市 | 浜松学院大学助教 | |
| 4 | 村松健太 | 袋井市 | 愛野こども園保護者代表 (保護者会会長) | |
| 5 | 大石博之 | 袋井市 | 愛野こども園保護者代表 (保護者会副会長) | |
| 6 | 山本淳司 | 袋井市 | 愛野地区コミュニティ代表 | |
| 7 | 吉崎成夫 | 袋井市 | 愛野地区コミュニティ代表 | |